

宮古病院から住民の皆様へ



Baton for You

ばとん

ふおー

ゆー

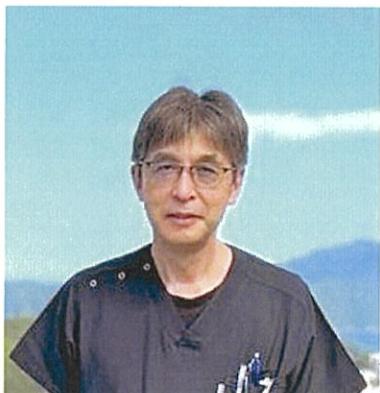


宮古病院では住民の皆様と病院をつなぐ広報誌を発行しております。

地域の医療に関すること、病院に関することなどを定期的にお伝えしております。

第24号は、「病院長から地域の皆さんへのご挨拶」と気をつけたい病気として「高血圧について」をご紹介しますのでご覧下さい。

また、MR専門部会通信にて、MRIとCTの違いをわかりやすく解説しますのでご覧下さい。



新年明けましておめでとうございます。

今年の干支は「甲辰(きのえたつ)」で、成功という芽が成長していき、姿を整えていくという意味があるそうです。

元日より能登半島で大地震が発生したり、2日には羽田空港で飛行機事故が発生したりと、なんとも悲しい年の始まりとなりました。能登半島をはじめとする被災者の皆様にお見舞い申し上げるとともに、今後のいち早い復興をお祈りいたします。

新型コロナウイルス感染症が世界に拡大してから、すでに4年以上が経過しました。昨年5月の連休明けから感染症の5類に引き下げられ、現在9波が終息し落ち着いているところです。とはいえ、昨年当院は何度も院内クラスターを経験しまして、一般診療を抑制しないで診療を継続するよう努めてきました。

また、昨年末は11月からインフルエンザも流行し、現在も定点あたりの患者数は、30を超える警報レベルとなっています。これらのウイルス感染症は、今後も流行することが予測され共存の道を探しながら対応することを検討しています。

年頭のご挨拶

院長 川村 英伸

今年4月より、医師の働き方改革が実施されます。長時間労働が常態化している勤務医の労働環境の改善が狙いで、時間外・休日労働の上限規制が厳しくなります。

しかし、働き方改革によって、医療の質の低下や患者サービスの低下を招くことが懸念されます。

私たちは、患者様への医療サービスの低下させることなく、これまで同様、患者様の訴えに耳を傾ける事をお約束します。

昨年も書きましたが、患者様にもご協力をお願いしないといけない事がいくつかあり、医療のフリーアクセスからの脱却をお願いしています。すなわち、かかりつけ医を持つこと、救急外来の適切な受診のお願い、平日勤務時間内の受診や病状説明に協力していただくことなどです。

10月からは、当院の改修工事、いわゆるリフォームが始まります。現在の病院は、築30年以上が経過しまして、立て替えではなくリフォームを行うことになりました。診療体制をなんとか保ちながら2病棟ずつの工事が3年間かけて行われます。

皆様には、病院内の治療場所の変更など大きな不便をお掛けしますが、診療には通常通り来ていただいて構いません。

今年、皆様にとって平和で良い年でありますように祈念して、年頭のあいさつとします。



1年次研修医

長田 昂祐



高血圧について

気を付けたい病気として今回私が紹介させていただくのは「高血圧」です。

血圧とは、血液が流れるときに血管にかかる圧力のことです。「上の血圧」「下の血圧」という表現を聞いたことがあると思いますが、上は心臓が収縮したときの「収縮期血圧(最高血圧)」のことと、下は心臓が拡張したときの「拡張期血圧(最低血圧)」のことです。

このどちらか一方もしくは両方が高くなってしまった場合、高血圧の可能性があります。

ただし、1回高い数値が出たからと言って、すぐ高血圧と診断されるわけではありません。

血圧は簡単に変化するため、高い数値が出たらリラックスしてもう1度測りなおしたり、別の機会に測りなおしたりしてください。

そして、何度か血圧を測っても血圧が高い場合は、医師の診察を受けることをお勧めします。

高血圧になってもすぐに症状は出てきませんが、徐々に体が傷ついていきます。高血圧は動脈硬化の原因になったり、心臓の負担が大きくなったりします。

そして、高血圧を放置していると、脳出血・脳梗塞・心筋梗塞・心不全・腎臓病など多くの怖い病気の原因となります。

そのため、高血圧には早期発見・早期治療がとても大切です。

高血圧治療で大事なことは「生活習慣の改善」です。「減塩」「バランスの良い食事」「適正体重の維持」「適度な運動」「節酒」「禁煙」などが代表的です。

適切な食事量や運動量は個人個人で異なります。そのため、自己流で決めずに医師に相談しながら目標を決めていただくようお願いします。

もし、生活習慣を改善しても血圧が下がらない場合は薬での治療も行います。

まずは、自分の普段の血圧を知ることがとても大切です。血圧を朝晩2回測って是非記録をつけてみましょう。

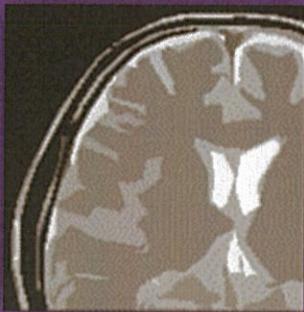
もし血圧が高いと思ったら、早めに医師の診察を受けることをお勧めします。

岩手県立宮古病院 基本理念

私たちは、地域の皆様の健康と命を守るために
○ 良質な医療の提供
○ 信頼され親しまれる病院
○ 働きがいのある病院づくり を目指します

岩手県立宮古病院

地域医療福祉連携室
岩手県宮古市崎鋏ヶ崎1-11-26
責任者 川村 英伸
(地域医療福祉連携室長)



診療放射線業務検討委員会

MR専門部会通信

行政端末メール：chuo-mri@pref.iwate.jp

2023年12月28日

ステラネットメール：医療局 MR 専門部会

第11号

この号の内容

1. **MR**Iと**CT**の違いは？
2. **MR**Iと**CT**をリンゴの画像で比較！
3. 撮像条件を変えた**MR**I画像の一例

1. **MR**Iと**CT**の違いは？わかりやすく解説！

画像を撮る検査で良く目にする**MR**Iと**CT**ですが、みなさんは2つの違いを御存じでしょうか？どちらも大きな筒の中に寝た状態に入る検査で、装置の見た目も似ている、輪切りの画像が撮れる・・・などをイメージすると思います。

今号では**MR**Iと**CT**の画像の違いや得意とする分野について、解説します。



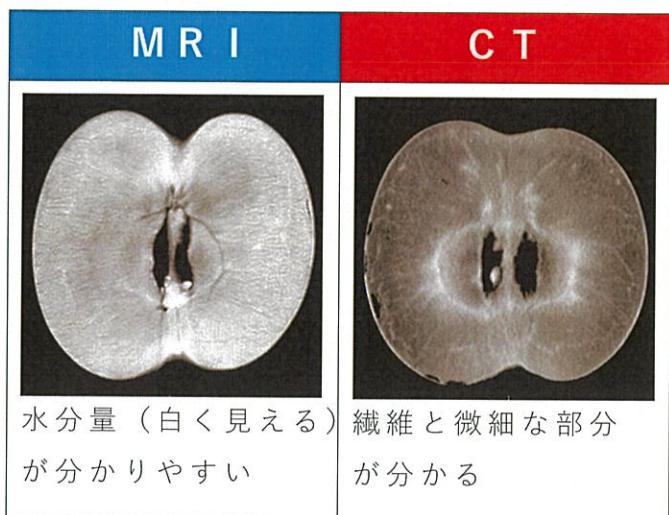
MRIと**CT**では、どちらが良いの？

MRIと**CT**はそれぞれに得意・不得意があるため、どちらの検査が優れているということはありません。どちらの検査が適しているかは、検査部位や目的によって変わってきます。

	MR I	CT
原理	磁場と電波を利用	放射線（X線）を利用
被ばく	なし	あり
検査時間	長い（20分～1時間）	短い（10分程度）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の濃度差が分かりやすい ・造影剤未使用で血管が撮れる ・騒音がある ・狭く長いトンネルに入る ・体内金属があると検査不可も 	<ul style="list-style-type: none"> ・細かなものまで見えやすい ・骨、肺の観察に良い ・検査中の音が小さい ・広範囲を短時間で撮影できる ・体内金属があっても検査可能
得意な病気&部位	<ul style="list-style-type: none"> ・早期脳梗塞 ・じん帯・半月板 ・神経 ・骨腫瘍病変 ・子宮・卵巢 ・前立腺・膀胱 	<ul style="list-style-type: none"> ・脳・頭蓋内の出血 ・肺癌や肺炎 ・骨折 ・尿路結石 ・腸炎・腸閉塞など



2. MRIとCTをリンゴの画像で比較！

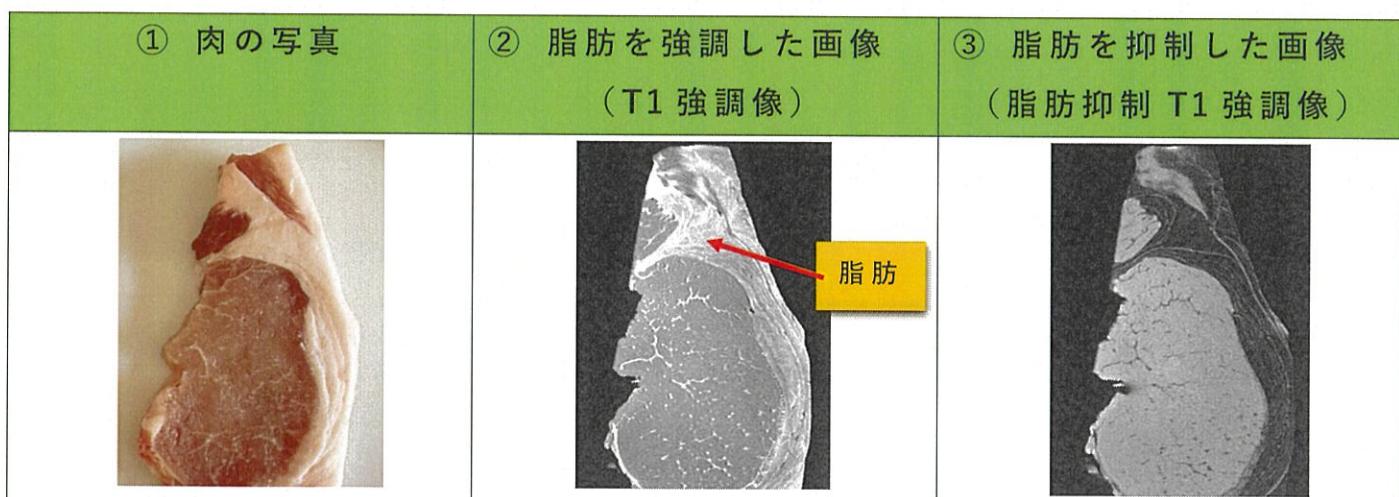


MRI画像は水分量の多いところを白く描出します。多くの病変（炎症・梗塞など）は白っぽく描出されますので、正常と病変の差が分かりやすくなります。

一方、CT画像はMRI画像よりも細かく小さな病変も描出すること、かつ、広範囲の検査を短時間で撮影できますので、緊急時の検査・スクリーニングに適しています。

このようにそれぞれの検査を使い分け、時には他の検査と組み合わせ、補完し合うことにより画像診断を行うことができます。

3. 撮像条件を変えたMRI画像の一例



MRIは撮像条件を変えることによって、様々な種類の画像を得ることができます。リンゴのMRI画像は水分を強調した画像でしたが、上記の②は脂肪が白く強調される画像です。造影剤を使用した検査では、造影剤によって染められた部分（腫瘍など）は脂肪と同じように白く描出されやすく、そのままだと見えにくくなってしまうため、③の画像のように脂肪だけを黒っぽく描出する画像を撮ることで、病変部分をより強調した画像を撮ることができます。

今回は水と脂肪を強調した画像を紹介しました。この他にも様々な種類の画像を撮る事ができるMRI検査は、画像診断の重要な一翼を担っています。

MRI検査について疑問や意見、要望などがありましたら部会までご連絡ください。

行政端末メール : chuo-mri@pref.iwate.jp

ステラネットメール：医療局 MR 専門部会